

58

第四十一年七月三日 警政務局

公第一九號

受第一四六五三號

第一課

明治四十三年七月廿三日

在奉天

總領事 小池

張造

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

第9門

戦死者遺骨に関する件報告

明治三十七八年及び於て戦死者の遺骨ハ一通リ之ヲ蒐集シテ其ノ一部ハ内地ノ遺族ノ送付シ残部ハ奉天遼陽其ノ他最寄ノ地ニ合葬シテ壯大ナル忠魂碑ヲ建立スル等ノ舉アリシモ尚ホ

在清國奉天日本總領事館

戦死ノ場所ノ及埋葬ノ儘ニ相成居候モノモ勘カラス清國土民ハ之ヲ幾堀シテ遺物ヲ横領シ遺骨ハ之ヲ牛馬骨ニ混入シテ骨粉製造京丹ニ賣却スル者アリ現ニ奉天附近萬宝山劉曹屯及三台子等ニ於テ幾堀ノ現場ヲ認メタル者モアリ頗ル汚状ノ極メ居ル趣ニ付不取敢清國官憲ニ対シ呈等土民ノ取締方ヲ照會シ又美東郡督ニ対シテハ及埋葬ノ儘各地ニ散在スル遺骨ノ速ニ之ヲ蒐集シテ相當ノ處置ヲ爲シ土民ヲシテ非行ヲ敢テスルノ餘地ナカラシムルヲ照會致シ

5-0645

0040

置候扇尚不聞之扇、依レハ人骨ハ肺病
 梅毒等ノ奇効アリトノ迷信ヨリ藥餌
 ニ供スル者アリテ高價ニ賣買セラレ
 之爲之ラぬ地ニ輸入スル者モ有之候
 由真偽未タ判明セザルモ人骨ヲ藥餌
 ト爲ス者アルコトハ新聞紙上ニモ性々散
 見スル所ナルヲ以テ斯ル事實ノ新シク
 之ナキヲ保シ難ク存セラレ候ニ付ぬ地
 於テモ相當注意取締リ爲ラハ必要
 アリト思拜セラレ候條爲念此致及款
 告候敬具

在清國奉天日本總領事館

甲

支那課長

大正二年一月廿日 接奉

第一課

附屬書類添附

大正二年一月廿四日 接奉

書政務局

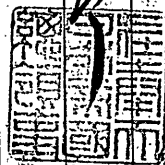
第一課

機密第六號

大正二年一月八日

在奉天

總領事 共合 送大



外務大臣公爵桂太郎 殿

少

受00908號

陸軍部

甲

本後湖に於ける戦死者墓地之関する件

白露戦役ノ際第一軍之附屬シ本溪湖附近に於テ戦死セシ我軍人ノ墓地トシテ當時第一軍に於テハ今地附屬地外東方太子河畔駱駝山林麓丘阜(一名忠魂山)上ニ忠魂碑ヲ建シ附近一帶ノ地ヲ劃シテ墓地敷地トシテ周圍ノ濠ヲ穿テ且ツ要所ニ第一軍司令官ノ名義ヲ以テ敷地内ニ戦没者墓地區域ナルヲ以テ之ヲ汚瀆スルヲ嚴禁スル旨ノ碑石ヲ建テ利然我軍人戦死者墓地タル事ヲ標示シアリシ處附近農民等ノ同地附近ニ耕地ヲナク且ツ比較的ニ石塊ナキ地面多キタルニ三年來右墓地區域内ニ耕作ヲ為シ漸次其耕作區域ヲ擴張シ今日ニ至ルニ全區域ノ過半ヲ耕作スルニ至リシヲ以テ全地守備隊長ハ本溪縣知縣ニ對シ該墓地ニ當時第一軍力適當ノ地ヲ選定シ各地主ハハ相當ノ報償(軍糧或島ヲ分

在奉天日本總領事館

此の用法は
用せざるが
非常時の
ありし後
用せざりし

其セリト云フヲ分其シ永遠ニ墓地トシテ兼諾セ
シメンモノナラハ農民ノ耕作ヲ嚴禁シ墓地ノ尊
嚴ヲ維持シ交渉シタル處左知縣ハ該墓
地ノ大地主ニテ且墓地劃定當時之ニ與リシ
保安寺ノ任職紀芝思カ當時何事代償
ノ分其ヲ受ケシ事ナキハ勿論日本軍ハ威壓
ヲ以テ設計シタル旨言証シタルヲ指トシ且
墓地トシテハ廣漠ニ圖クニテ口實トシテ極力
境界ヲ狭縮セシメントシ之ニ應セザリシヲ以
テ左隊長ハ過般左地方面巡閱中ナリシ
都督府隈陸軍經理部長ニ右ノ趣キ
報告シタリシカハ左部長ハ全隊長ト共ニ
戰死者ノ墓地ハ其所^在國之ヲ保護
在奉天日本總領事館

ス(キ義務マ^ル旨ヲ以テ知縣ニ談判セシ
モ知縣ハ前言ヲ繰返シ且自己ノ職權
内ニテハ嚴決シ難キヲ以テ交渉司へ交渉
セラレ度キ旨回答シタルニ因リ左部長ハ知
縣ニ對シ貴國ニ於テ該墓地ノ保護
ヲ為サザンニ於テハ不得止當方ニ於テ相當
ノ措置ヲ為スヘキ旨通告シ又陸軍側ニ
テハ能^ク迄軍司令官ノ區劃セル區域ヲ以
テ墓地用地トシ全然耕作ヲ禁^止セル方
針ヲ取リ知縣側ニ於テハ墓地トシテハ之ヲ認
ムルニ該區域ノ余リニ廣^ク闊ナルヲ口實トシ志
魂碑ニ近接セシハ區域ノミ^ニ縮^小サ限
定セントシ彼我ノ間ニ於テ絶對的^ニ反對^的ノ行

勤ヲ採ラントシ居ル旨本漢湖敬務支署ヨ
リ報告致末候ニ付尚ホ詳細ノ件取調
報告方申進置候處存同別紙寫ノ
通因報致越候條御査閱相成度
爲念此致及報告候具
送テ本信寫北京公使ノモ及送付置候

在奉天日本總領事館

5-0645

0044

寫

本警高秘第一二二號之三

大正元年十二月三十日

本溪湖警務支署長植村清治

在奉天總領事落合謙太郎殿

戦死者墓地之関する件

本月十三日附機密都第六二號御通牒之基キ
右墓地區域地圖並坪數等其其他関係事項
取調候處尤記ノ通ニ候條此段及報告候也

墓地之関する取調事項

一、墓地位置及地積坪數

墓地ノ位置、別紙畧圖ノ通り、鐵道線路

在奉天日本總領事館

沿ハタル園兵ニテ地積ハ全ク樹木ナキ先山ナルモ
比較的右塊ナキ地面多キタル點ト全區域
ノ過半ハ耕作ヲナシ居リ坪數ハ緩慢ナル
傾斜ヲ有スル高地ナルハ周圍ノ間數ニ依リ打
算セハ大差ナカラント思料セラル

一、墓地地主及關係者

當墓地地主ハ該墓地隣接地ニアル保安
寺(支那寺)ノ寺領ハ其大部分ヲ占メ他ノ附
近村民ノ所有ナリト云フ而シテ該墓地則定當
時之レニ與リシハ保安寺住職記芝恩ナル
者ニシテ當時境界線ニ建設セル林柵制
碑ニ基キ碑面ハ同僧ノ筆ニ成リシモノナリ
ト云フ

墓地設定

墓地設定之執テハ當時第一軍カ適當ノ地ヲ指定シ各地主ヘハ相當報償(軍糧殘留ヲ分與セリトス)ヲ分與シ永遠ニ墓地用トシテ兼諾セルモノナリトハ軍隊側ノ主張ナルモ保安寺任職紀甚恩ナル者ハ最初本件ニ參照シ何等代償等ノ分與ヲ受テシコトナキハ勿論當時日本軍ハ一時的威壓ヲ以テ設計シタルモノナリト主張シ居ルヲ以テ他ノ地主等モ同人ニ雷同シ且ツ知縣等ハ同僧ノ言証ヲ指テ取リ極力境界ヲ狹縮セルメントナシ居ルモノ、如シ

在奉天日本總領事館

墓地保存之閣シ十二月十三日附ヲ以テ本溪湖守備隊長ニ通報セル書面ノ要領別紙ノ通り

而シテ守備隊長ハ右内訓的告知ニ依リ極力右ノ方針ヲ遵行セントナシ居レリ
一 地圖ニ記載セル總坪數ハ當地經理係ニ於テ測量セルモノニシテ比較的坪數多キハ山地ニシテ傾斜多キタメナリ尚同係ニ於テ月下修正及確ナル地圖調製中

本溪湖墓地境内設備ノ件

大正元年十二月十日関東都督府陸軍經理部長隈徳三

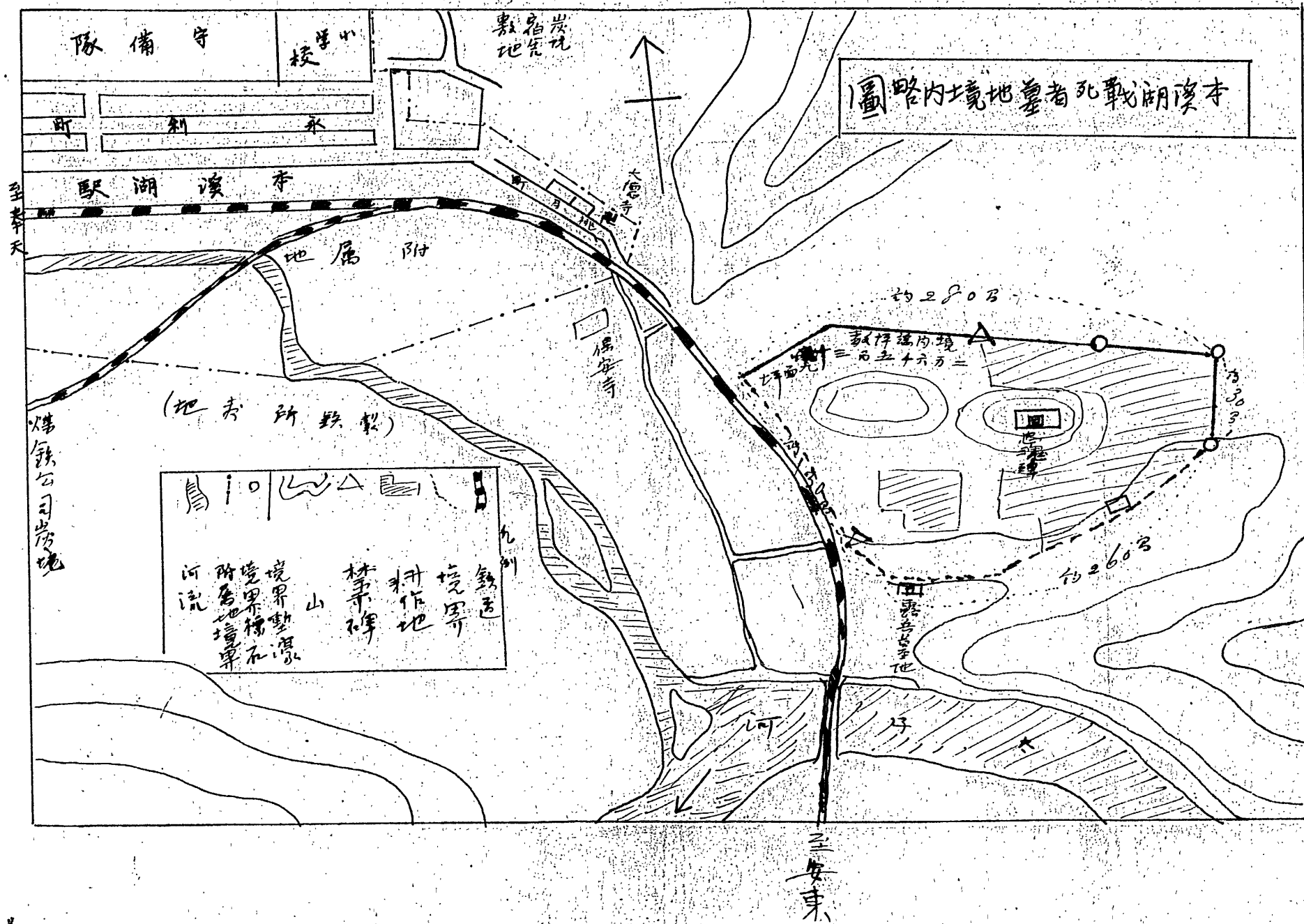
本溪湖守備隊長村田怡致

十日夕刻奉天ニ於テ都督ニ面會シ節貴地ニ
 於ケル墓地ノコトヲ話セシ處都督ニ於テモ保存
 ノコトハ全然御同意ナリ夫レモ墓地ノ境内ハ何
 人カ見テモ聊カ廢キニ失スルヤノ感アリ知縣等
 モ亦之ヲ以テ笑トスルニ由リ此ノ訛難ヲ避クニ為シ
 滿鉄側ニテハ幸ヒ公園設備ノ希望アリ之依
 リ經理課主任ニ協議シ或ハ道路ヲ開鑿
 シ或ハ鳥居ヲ造リ小祠ヲ祠ル等若干ノ設
 備ヲ加ヘ外觀上決ニテ廢キニ過クニカ如キ
 嫌ナキ様ニスルヲ機宜ニ適シタル處置ト
 在奉天日本總領事館

考ハ此等ノコトヲ滿鉄側ト協商シテ成シ

得ルニ實施ノ運ヲ希望致候 奉天總

領事ヘモ話シ置キ候



5-0645

0048

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

乙

乙

本溪湖ニ於ケル戦死者墓地ニ関スル件
外務大臣公函附桂太郎殿

第01373號

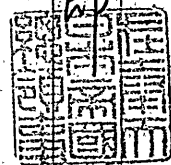
大正二年一月廿日發
主務政務局

公第一一號

大正二年一月十四日

在奉天

總領事落合謙太郎



外務大臣公函附桂太郎殿

本溪湖ニ於ケル戦死者墓地ニ関スル件

日露戦役ノ際第一軍カ戦没軍人墓地用
トシテ本溪湖ニ區劃シタル地面内ニ附近土民
カ耕作ニ着手シタルヲ以テ同地守備隊長
ト本溪湖知縣トノ間ニ交渉ヲ生シタル件ニ

在奉天日本總領事館

関シテハ本月八日附公信第六号ヲ以テ不取
敢及報告置候ニ付キ已ニ御兼知ノ事ト
被存候恐ル慮本件ニ関シ本月十一日于
交渉使張都督ノ命ヲ會ヒテ未館ニ日
清協約ノ規定ニ基キ日露戦争ニ於ケル
日本戦死者ノ墓地ヲ清國ニ於テ照料ス
ルハ勿論ノ義ナルモ本溪湖ニ於ケル忠魂碑
用地ハ約四百畝ニシテ稍々廣大ニ失スルヲ
以テ人民ノ苦情多ク又之ヲ買收スルニモ巨額
ノ費用ヲ要スル慮實際墓地トシテ斯ル廣
大ノ土地ヲ要スル理由無キヲ以テ之ヲ相當
ノ地積ニ減シテ實際ノ所用地全部ニ奉天
都督ニ於テ人民ヨリ買收ノ上其儘之ヲ墓地

東洋



用トシテ保存スルコトニ致度ヲ以テ右ノ同意アル
 様希望スル旨申出候本件ニ就テハ隈
 都督府経理部長常地通過ノ節談話
 セラレタリコトモ有之支那側ノ苦情ヲ作ラ
 方法トシテ不用地ヲ公園トナスヤノ計畫アル
 由ナルモ拙信中添附ノ地圖其他ノ書類
 ニ就キテ之ヲ見ルモ實際降墓地トシテハ勿論
 之ニ多クノ公園類ノ附属地ヲ附スルニシテモ
 尚ホ聊カ廣キニ失スルノ嫌ヒナキニアラスト認
 メラレ候間墓地用及多少附属地域ヲ存
 スルコトスルモ尚ホ實際上不用ノ地面ハ支那
 側ニ返還致スコト敢テ差支無キノミナラス
 政策上有益ノコトニ可有之ト認メラレ候尤
 在奉天日本總領事館
 モ支那側ニ對シテハ考慮ノ上其勸ニ問
 合セ置クヘシト答ヘ置候間孰レニ決セラ
 ルモ差支無之義ニ有之候得共別ニ該
 地域全体ヲ保留スヘキ重大ノ必要モ無之
 候ハレ大體ニ於テ必要ノ地域以外ハ支那側
 ニ返還スルコトニ帝國政府ニ於テ御詮議
 ノ上御回訓ト同時ニ関東都督府ヘモ御
 通達相成候様御取討相成候様致
 度此段申進候致具
 遜テ本信寫ハ福島関東都督ヘモ及
 送付置候

水物
其結果如何儀は回音相及之共際ハ
ナシ

別紙奉之申付第二相経附一示

外務省

5-0645

0052

文書課長

大正貳年參月廿日 接覽

大正貳年三月十九日起算
同 年三月二十日附

送第 五 號

主管 政務局長

大正貳年參月廿日 送覽

日清戰役後 朝鮮半島 之 遺跡 調査 報告 書



主査

印

印

印

大藏陸軍大臣宛

牧野大臣

本溪湖ニ於テノ戰死者墓地ニ関

スル件

外務省

本年一月廿七日附送第一四號ヲ以テ在奉天

該合總領事來信ヲ添附及傳喚合置

矣依本湖米穀賣却基地件ニ用其

後ハ本湖米穀賣却基地件ニ用其

支那側ノ回答ニ對シテ有之矣閣下 詳議

結果 本湖米穀賣却基地件ニ用其

答相向度其後申進至也

第 9 門

附送七行

大正四年四月 四日接受

陸軍省 陸軍部 第一〇四五號

陸軍省 陸軍部 第一〇四五號

本溪湖ニ於テ戰死者墓地ニ関スル件 回答

大正二年四月六日

陸軍大臣 野田 伸 殿

本溪湖ニ於テ戰死者墓地ニ関スル件、付本年一月二十七日、第一四号ヲ以テ照會、越了承知件ニ関シ、諸國側ノ主張ハ主トシテ該墓地ノ廣狹ニ関スル事ニ有テ候、其實際該地域ハ丘阜ニシテ土地概シテ斜面ニ屬スルヲ以テ境内ハ一見過度ノ觀見モ地形上現在ノ区劃ヲ適當ト認メ得ルコトナラズ軍隊隊伍ヲ組ミ多ク拜、場合ヲ顧慮スルトキハ決シテ廣キニ過クハ如キト無テ候加テ守備隊新兵營建築地ハ該墓地ト小川ヲ隔テテ相對峙セ、ル丘阜ナリテ之ヲ刻讓シテ耕作用途ニ供セシムルカ如キハ

陸軍

教育上衛生上共ニ我軍隊ノ最モ苦痛トナス所ニ候尚滿鐵ニテハ墓地附近ヲ公園ニ設備シ度希望ヲ有シ既ニ之ニ接シテ一帯ノ地積ヲ買収シ又該地居苗民ニ於テモ同地附近ニ神社建立、企圖有テ候越ニ候得ハ此際如等ノ設備ヲ許シテ以テ忠烈勇武ニ我戰死者ノ遺跡ヲ永遠且尊嚴ニ保存シテ敬慶ノ念ヲ起サシムルハ軍隊ハ勿論居民一般ノ精神修養上多大ノ利益アルコトニテ極メテ機宜ニ適シタル靈置ト存候觀テ支那國民及官憲ノ所為ヲ按スルニ該墓地カ土壘及壕ヲ以テ圍繞セ、ラレ且禁令標ヲ建テアルニモ拘ラズ忽チ土壘ヲ毀テ耕作ヲ施シテ境内ヲ蹂躪シ神聖ナル靈地ヲ汚穢ナラシメ、且其ノ官憲カ之ヲ傍觀シテ何等ノ措置ヲナサザリハ明カニ日清滿洲善後協約及附屬條約ノ附屬協定第五

條に背反スルモノレテ我國ハ此行乃ニ對シ當然之ヲ詰責
スルノ權利ヲ有スルモノト存候然ルニ反テ土地ノ廣狹ヲ云
為ニテ墓地ノ割讓ヲ要求セシムルカ如キハ從來關東都
督府經理部長及守備隊長カ支那側ニ對シ嚴談シタ
ル事情モ有之ニ付今日之ヲ讓歩スルハ我帝國ノ威信ニモ
關係スル所切カラスト被存候
以上ノ理由ニ依リ陸軍ニ於テ其區域ヲ縮小スルコトヲ究
全ニ該墓地ヲ保存致度候條可然ハ取計相成度候也

陸軍

5-0645

0055

文書長

大正貳年四月拾日接受

67

大正貳年四月拾日

大正 二年 四月 十九 日附

別紙

送第 六三 號

主管 政務局長

1

大正貳年四月拾日達濟

在奉天

牧野大臣

落合總領事

本溪湖、旅順、戰死者墓地

送不件

外務省

本件、關於往電牙五五號ヲ以テ申進
置美陸軍大臣、回答ヲ別紙ニ通達
參考送、及奉送附呈条々查閱相成
度其殿申進也

(陸軍省表第一〇四五號ヲ添附)